

令和7年度 キッズフロンティアV番館(放課後等デイサービス)事業所における自己評価結果

令和8年3月20日実施

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		窮屈にならないよう、スペースを見ながら余裕を持った活動ができるよう調整している。	繁忙期や利用者増加時に少し手狭に感じることがあるため、定期的な見直しが必要。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		お子さんの様子に合わせて多く職員がつけるよう工夫している。	急な欠勤時のフォロー体制が不十分な場合があり、マニュアル整備と能力の向上が求められる。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		見てわかるようにスケジュールを掲示したり、動きやすい動線を意識して環境を整えている。	音の刺激が気になるお子さんへの配慮がまだ十分でない部分もあり、少しずつ改善していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日の清掃と整理整頓を心がけ、気持ちよく過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	活動によってにぎやかな場所と落ち着ける場所をもう少しうまく分けられるとよい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		気持ちを落ち着かせたい時などに使える部屋がある。	個室の数が限られているため、複数のお子さんが同時に必要とする時に対応が難しい。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的に皆で集まって目標を確認したり振り返りをしたりする機会を作っている。	職員によって関わり方に差が出てしまうこともあるので、みんなが参加しやすい雰囲気を作っていきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		いただいたご意見を職員間で共有するようにしている。	回答してもらえる数を増やすことと、いただいた意見をもっと具体的な改善につなげる流れを作ることが課題。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		個別面談で職員が意見を出しやすい機会を設けている。	集めた意見がなかなか改善に結びつかないこともあるため、フィードバックをもっと早くできるようにしたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	事業所・保護者・利用者以外の第三者による外部評価は現時点で実施していない。	第三者による外部評価は現時点で実施していないため、今後導入を検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		入社時に研修会を開催し、事業所内での研修を開くようにしている。	現場を離れにくい状況もあって参加できない職員もいる。
適切な支援の提...	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援計画書を作成し、保護者の方にもわかるようにお伝えするようにしている。	定期的に見直す習慣をつけていきたい。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者との面談やお子さんの様子の観察をもとに、丁寧にアセスメントを行うようにしている。	保護者のニーズをもう少し整理して記録に残す方法を工夫していきたい。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		関わる職員が集まって話し合い、お子さんにとって何が大切かを一緒に考えるようにしている。	非常勤の職員も含めて全員が同じ理解を持つよう、情報の伝え方をもう少し工夫したい。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援計画を事務所に置いて、誰でも確認できるようにしている。	計画に沿って支援できているかを定期的に確かめる仕組みをもっと整えていきたい。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		標準的なアセスメントのツールを使って、定期的にお子さんの状況を確認するようにしている。	ツールの結果を日々の支援にもっとうまく活かせるよう、職員間での使い方の共有を深めたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		本人支援だけでなく、家族支援や移行支援なども意識しながら計画を作るようにしている。	地域との連携に関する内容がまだ薄い部分もあるので、少しずつ充実させていきたい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		員みんなで意見を出し合いながら活動プログラムを考えるようにしている。	特定の人を中心にがちなので、誰でも意見を出しやすい場の雰囲気づくりを心がけたい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		季節の行事やお子さんの興味に合わせて見直すようにしている。	マンネリになりがちなので、新しいことにも少しずつチャレンジしていきたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子さん一人ひとりの状況に応じて、個別と集団をうまく組み合わせ支援するようにしている。	集団活動の中で個別の対応が必要な場面での人員のやりくりが難しいことがある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日支援の前に短い打合せをして、その日の流れや担当を確認するようにしている。	時間が短くなってしまいう日もあるので、大事な情報が漏れないようにする必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援が終わった後に気づいたことを共有する時間を作るようにしている。	忙しい日は振り返りが省略されてしまうこともあるので、短くてもきちんと記録に残せるよう工夫したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援の記録をきちんとつけて、支援の振り返りに役立てるようにしている。	職員によって記録の書き方に差が出てしまうこともあるので、書き方のポイントを共有していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングの場を設けて、支援計画を見直すようにしている。	忙しくなると見直しのタイミングが遅れてしまうこともあるので、スケジュール管理を徹底したい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		個別の支援計画に基づき、一日の流れの中で複数の領域を網羅できるようプログラムを構成している。	4つの領域のバランスが偏らないよう、幅広い経験を提供できる体制を強化したい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自由遊びの時間に自らの意思でやりたいことを選び、達成感を得られるような環境を整えている。	意思決定の質をさらに深める支援のバリエーションを増やしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		お子さんのことをよくわかっている職員が担当者会議に出席するようにしている。	複数の会議が重なってしまう時の調整や、代わりに出席した時の情報共有をもう少しうまくできるようにしたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関とのつながりを大切にしながら支援している。	機関によって連携の仕方がバラバラなこともあるので、もう少し整理してわかりやすくしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		支援計画の共有を行っている。特に行事予定や下校時刻の変更については、漏れがないようダブルチェックをしている。	事業所内だけでなく、学校生活も含めた一貫性のある支援体制をより強固なものにしていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者の同意を得た上で、以前利用していた児童発達支援事業所等からやアセスメント結果を共有していただいている。	受け入れ時だけでなく、就学後も必要に応じて関係機関とのケース検討会などを企画したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後の進路が決まった際、ご本人・保護者の依頼があれば支援のポイントや配慮事項をまとめた資料を作成している。	卒業直前だけでなく早い段階から計画的に進められるよう、相談支援専門員との連携をより密にしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要な時には地域の児童発達支援センターに相談したり、アドバイスをいただける関係づくりを心がけている。	もう少し積極的につながりを持てるようにしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		まだ十分に整っておらず、定期的な交流の機会を設けるところまで至っていない。	今後は地域の保育所や幼稚園などに声をかけながら、少しずつ実現できるよう取り組んでいきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		現在は、日々の直接支援や保護者対応、学校との密な連携を最優先事項として取り組んでいる。	参加できるタイミングがあれば検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ラインワークスを導入し、日々の様子をお伝えするのと、送迎時にお子さんの様子を保護者にお伝えするようにしている。	伝えられる内容が日によってばらつくこともあるため、きちんと共有できるよう工夫したい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日々の報告を徹底し、自宅での様子も積極的に報告してもらうようにしている。	実際に参加できる機会がまだ少ないので、事業所でも気軽に参加できる場を少しずつ作ってきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時に運営規程や費用について、わかりやすく説明するよう心がけている。	説明が長くなって伝わりにくいこともあるので、資料をもっとわかりやすく整理していきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画を作る際にはお子さんや保護者の気持ちや希望を聞く場を必ず設けるようにしている。	保護者の意向をもっと丁寧に引き出せるよう、面談の進め方を工夫していきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書と一緒に見ながら支援の内容を説明し、同意をいただくようにしている。	説明が難しい言葉になってしまうこともあるので、もっとわかりやすい伝え方を工夫したい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談の機会を設け、保護者からの子育ての悩みに丁寧に応じるようにしている。	相談しやすい雰囲気やさらに作っていきけるよう、日頃からの関係づくりを大切にしていきたい。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	職員の体制や日程の調整がなかなか難しく、保護者同士やきょうだいが集まれる場をまだ設けられていない。	保護者の方からニーズをお聞きしながら、できるところから少しずつ取り組んでいきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	相談や申入れがあった時はいつでもラインワークスに内容をあげてもらおうようにしている。	迅速に対応できる体制をさらに整えるため、対応の流れをもう少しわかりやすくまとめておきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	ブログやラインワークスを活用して、活動の様子や行事の予定などをお伝えするようにしている。	療育内容次第で発信の内容にばらつきがある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	職員に周知し、取り扱いに十分注意するようにしている。	定期的に確認する機会を作り、情報管理の意識をさらに高めていきたい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	伝わりやすい言葉や視覚的な資料を使うなど、コミュニケーションへの配慮を心がけている。	お子さんや保護者様ひとりひとりに合った伝え方をさらに工夫していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	手いっぱいになってしまい、地域の方をお招きするところまで手が回っていない。	小さな行事から少しずつ地域の方に関わっていただけるよう、できることから取り組んでいきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	各種マニュアルは職員や保護者にお伝えするようにし、訓練も行っている。	訓練の内容がかたよってしまうこともあるので、ばらつきがないようにしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	BCPを作成し、非常時に備えた避難訓練なども定期的実施するようにしている。	計画の内容を職員全員がしっかり理解できているか確認し、定期的に見直す習慣をつけていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	契約前に服薬やてんかん発作などの状況を保護者から確認するようにしている。	全員が見れるところにあるが、何かあったときの対応についても職員全員が理解しておく必要がある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師の指示書をもとに、アレルギーのあるお子さんへの対応を徹底するようにしている。	何かあったときの対応についても職員全員が理解しておく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	安全計画を作成し、必要な研修や訓練を取り入れながら安全な環境づくりに努めている。	計画の内容を定期的に見直し、実際の支援にきちんと活かしているか確認していきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	安全管理の取り組みについて、保護者にわかりやすくお伝えするようにしている。	周知は出来ているが、まだ十分でない部分もあるため工夫したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	ヒヤリハットの内容を職員間で共有し、同じことが起きないように話し合うようにしている。	対策をきちんと実行できているかの確認をさらに丁寧に行っていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	外部の研修告知もあり、職員の意識向上に取り組んでいる。	まだ十分でない部分もあるので、定期的に学べる場を確保する必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	やむを得ず身体拘束が必要な場合の考え方を組織で決め、保護者に事前に丁寧に説明するようにしている。	計画への記載や説明の内容をさらにわかりやすく整理し、保護者が安心できるよう丁寧に対応していきたい。	